

島根県公共事業再評価委員会 質疑応答

件名	令和元年度 第3回島根県公共事業再評価委員会
開催日	令和元年8月5日(月) 10:00~16:00
場所	抽出地区(浜田市、益田市、津和野町、吉賀町)
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ●委員 上野和広、武邊勝道、常國文江、寺田哲志、 豊田知世、長廻英夫、平川眞代、松浦俊彦、三輪淳子 ●県 土木部 技術管理課長、森林整備課 GL、道路建設課 SL、 港湾空港課 GL、砂防課 GL 他
議事	<p>抽出箇所の現地調査</p> <p>【県中部班】：寺田会長、上野委員、豊田委員、長廻委員、平川委員</p> <p>1) 県営林道開設事業 足尾線</p> <p>2) 地すべり対策事業 中遠田地区</p> <p>3) 海岸侵食対策事業 三隅港湊浦地区</p> <p>【県西部班】：三輪会長代理、武邊委員、常國委員、松浦委員</p> <p>1) 急傾斜地崩壊対策事業 椋谷地区</p> <p>2) 防災安全交付金事業 国道187号 大野原工区</p> <p>3) 防災安全交付金事業 (一) 匹見左鏡線 左鏡Ⅱ工区</p> <p>4) 急傾斜地崩壊対策事業 扇町地区</p>

質疑応答

◇抽出審議地区 【県中部班】
別途掲載

◇抽出審議地区 【県西部班】

1) 急傾斜地崩壊対策事業 椋谷地区

1. 現地での質疑(椋谷集会所付近にて)

(委員) 平成25年度~26年度に測量調査設計、29年度に用地測量調査とあるが、27年度~28年度の2年間は何を行っていたのか。

(県) 用地の関係で地元調整を行っていた。

(委員) 人家は3戸しかないが、そんなに調整に時間がかかるのか。

(県) 斜面の所有者と人家の住人が違う箇所もあるため、関係地権者はもっと多い。関係地権者それぞれの要望等の調整に時間を要した。

(委員) 集会所の収容人数は何人か。

(県) ハザードマップ上は 20 人となっている。

(委員) そもそも危険な場所にある集会所が避難所となっているのはどうなのか。

(県) 避難所として利用できる施設の数に限りがあるのでやむを得ない面もある。そのような施設を保全するために国の重点施策として避難所の土砂災害対策を行っているところである。

(委員) 避難所を安全なところに移転するか、安全な場所を避難所として指定するかの方がいいのでは。

(県) 災害が発生した際には道路が寸断されるようなことも想定されるので、ある程度地区ごとに避難所は必要であると考えます。

(委員) 吉賀町はどのように考えているのか。

(県) そこまでは分からないが、現状避難所として指定してあるので県としては避難所対策として事業を実施している。

(委員) (資料を見ながら) 集会所背後の擁壁が中途半端な位置で終わっているが、集会所の保全が図れるのか。

(県) 資料で示したのは簡易的な図面で切れているが、詳細な図面において終点は集会所を保全するように擁壁が L 字型になっている。

(委員) 昨今の集中豪雨での被害のことを考えると、(家屋や避難所背後の) 斜面がごっそり崩れてきた際に今の計画ではとても対応できないように思う。それならば、事業費の一部を用いてでも移転を行う方向で考えた方がいいのではないかと。

(県) 山がすべて崩れてくれば確かに今の計画でも対応はできない。しかし、現地の地質調査を行った結果、崩壊の恐れがある土砂の層は地表から数 10cm 程度であることが分かっており、その下は安定している岩盤の層になっているため山がすべて崩れてくるとは考えていない。土砂部分の崩壊であれば現在の計画で十分対応できると考えている。

(委員) この地区の手前にもコンクリート擁壁があるが、あれも急傾斜事業の施設か。

(県) 道路沿いのコンクリート擁壁は道路事業で道路を拡幅した際に施工した道路の施設である。

(委員) この地区は民家を保全するから急傾斜事業で実施しているということか。

(県) そのとおり。

(委員) 椈谷地区は道路の保全も行っているのではないかと。

(県) 被害想定区域に道路が含まれており、結果として道路の保全が行われているが、主目的は人家の保全である。

(委員) 保全人家の3戸には何人が住んでいるのか。

(県) 正確な数字は把握していないが、1件当たり2~3人だと思われる。

(委員) 家を移転してから擁壁を設置した方がスペースを広く使えて安く施工できるのではないか。

(県) 擁壁は家を保全するために設置をするものであるので、家を移転するとなればそもそも擁壁の設置は行わない。

(委員) 道路(主要地方道新南陽津和野線)はどこまで続いているのか。

(県) (管内図を見せながら) 山口県まで続いている。

(委員) 奥の方にも集落はあるのか。

(県) 奥の方にも集落はある。そこにも避難所があるので、奥の集落の人はそこに避難する。

(委員) 奥の集落の土砂災害対策は行わないのか。

(県) 奥の避難所の背後には危険な崖がないので、対策は行っていない。

(委員) B/Cはどのように算出をしているのか。

(県) Cは事業完了に必要な費用、Bは事業完了によって保全される対象の便益になる。便益は家が1戸保全されればいくら、避難所が保全されればいくら、というように設定された値があり、それらの積み上げによって算出している。

2) 国道187号防災安全交付金(交通安全)事業 大野原工区

1. 現地での質疑(大野原工区現場にて)

(委員) 工事着手している順序は?

(県) 用地買収が完了している区間から順次工事着手している。

(委員) 大野原工区より起点側(岩国側)の歩道の整備状況は?

(県) 歩道は整備済みである。

(委員) 本工区はサイクリングコースとして紹介されているとのことだが、他のサイクリングコースも全て歩道整備する予定か?

(県) そのような計画はない。本工区は通学路であり、歩行者と自転車の分離により安全が確保される。

(委員) 緊急輸送道路に指定されているとのことだが、災害時にどのように利用されているのか?

(県) 六日市インターへ向かう唯一の路線であり、過去の災害で国道9号が通行不能となった際に代替路として活用された事例もある。

(委員) 横断図で歩道幅が2 mとなっているが、これは歩車道境界ブロックを含めて2 mと
いうことか？

(県) そのとおりである。

3) (一) 匹見左鐙線防災安全交付金(改築)事業 左鐙Ⅱ工区

1. 現地での質疑(左鐙Ⅱ工区現場にて)

(委員) 本工区の先にある集落の状況を教えてほしい。

(県) 本工区の先にある集落は上横道地区で、23世帯、41名の集落である。

(委員) 高齢者が多いのか？

(県) Iターンによる定住の呼び込みなどにも力を入れており、過去にはIターンで
若い世帯の移住があったと聞いている。

(委員) Iターンの方は、仕事は何をされているのか？

(県) 建設会社で働いていると聞いている。

(委員) 安蔵寺山の登山者数はどれくらいか？

(県) 年間1100人程度である。

(委員) 安蔵寺山への登山客は、他の登山ルートと比べてこの路線を通過して登山道へ行く人
が多いのか？

(県) 以前は本路線の先に宿泊施設があったため、この路線を通過して宿泊施設を利用
して登山する方がいた。

(委員) 改良前はどのような面で危険だったのか。事故が多かったのか？

(県) この辺りは積雪が多い地域であり、除雪が必要となる。現況は幅員が狭いため、
除雪でよけた雪により通行スペースが狭まり非常に危険な状況であった。

(委員) 対応方針(案)で地元が協力的との記載があるが、具体的にはどのような状況か？

(県) 毎年1回、上横道地区自治会が主催する意見交換会に津和野町や県も参加し、
地域の課題などについて話をしている。その中で本事業に対しても活発に意見
をいただき、通行規制について協力・支援をいただいているところである。

(委員) 2車線区間は路線全体の何%か？

(県) 確認しないと分からないが、10~20%程度である。

(委員) 集団移住の施策について、どう考えているか？長期的にみると、このような事業は
経費と時間が無駄にかかるのでは？

(県) そのことについては、課題として認識しており、県や国で「小さな拠点づくり」
について検討している。

(委員) 環境への配慮事項として、対応方針(案)に記載のある環境保全型ブロック以外に

取り組んでいることはあるか？

(県) 盛土法面の緑化を図っている。

4) 急傾斜地崩壊対策事業 扇町地区

1. 現地での質疑 (整備済み区間にて)

(委員) (図面を見ながら) 斜面の形状が違う箇所があるが、何かあるのか。

(県) お墓がある。擁壁工はお墓を避けた位置に計画している。

(委員) 擁壁がこの位置だと春日神社が保全できないのではないか。

(県) 神社は常に人がいるわけではないので通常保全対象とは考えない。避難所となっていれば別だが、春日神社は避難所指定されていないため保全対象とは考えない。

(委員) (図面を見ながら) 斜面にある施工済み箇所はネットをしているのか。

(県) そのとおり。現地調査を行った結果、斜面下の擁壁工で対応できないような大きな落石源については、原位置で止めるような設計としている。

(委員) ネットを停める金具は深く差しているのか。

(県) 1m10cm 程度の鉄筋で止めている。

(委員) 落石対策という話だが、土砂崩れは想定していないのか。

(県) 土砂崩れと落石の両方を想定して対策を計画している。対策工法については斜面を踏査した結果に基づき計画している。

(委員) 落石対策は当初の計画段階からあったのか。

(県) そのとおり。

(委員) 図面右上の落石対策が今年度実施予定になっているのは後から落石対策を検討したからではなく、単純に工事が後回しになったということか。

(県) そのとおり。用地の関係で今年度の実施予定となっている。

(委員) コストの縮減に再生資材の使用とあるが、再生資材の利用率は何%か。

(県) 利用率までは把握していない。再生資材としては再生砕石を工事用道路や擁壁背面の埋め戻し材として使用している。

(委員) 防護柵などに再生資材を使用しているわけではないのか。

(県) 防護柵は再生資材ではない。

(委員) 再生砕石を使用することによりコストや廃棄物の削減につながるのか。

(県) 再生砕石はコンクリート殻などでできていて、コンクリート廃棄物の削減につながる。また、再生砕石は砕石(新材)よりも安いいため、コスト削減にもつな

がる。

(委員) 栴谷地区は土地の混乱があるという話だったが、扇町地区はどうなのか。

(県) 本地区も土地の混乱は多少あったが解消済みである。

(委員) 用地はすべて買収済みなのか。

(県) 現在買収している最中である。地元は協力的であり要望も強い。現在は1つの工区の施工となっているが、用地買収が済めば2つの工区を同時に施工し事業の進捗を図る予定。

(委員) この地区の避難所はどこになるのか。

(県) 津和野町役場や日原小学校になる。

(委員) 避難所は被害想定区域内にはないのか。

(県) 被害区域内にはないが、避難経路である町道は被害想定区域に含まれる。

(委員) 不落札で工事が進まなかったとあるが、不落札後、工事価格の変更を行ったのか。

(県) 行っていない。価格については島根県の基準に基づき積算している。

(委員) 災害復旧が落ち着いたからこの地区の工事に着手し出したということか。

(県) そのとおり。

(委員) 対策工の検討にあたり、どの程度の雨量を想定しているのか。

(県) 具体的な雨量を想定して設計を行ったわけではなく、現地踏査を行い崩壊跡等から崩壊斜面を推測し設計を行っている。